

# 第1回有識者会議でいただいたご意見について

令和7年8月29日

関東地方整備局 河川部

富士川水系河川整備計画(変更原案) 目次

前回説明内容

- 1. 富士川の概要
  - 1.1. 富士川の流域及び河川の概要
  - 1.2. 治水の沿革
  - 1.3. 利水の沿革
  - 1.4. 河川環境の沿革
- 2. 河川整備の現状と課題
  - 2.1. 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する現状と課題
  - 2.2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する現状と課題
  - 2.3. 河川環境の整備と保全に関する現状と課題
  - 2.4. 河川維持管理の現状と課題
  - 2.5. 近年の豪雨災害や地震災害等を踏まえた現状と課題
- 3. 河川整備計画の対象区間及び期間
  - 3.1. 計画対象区間
  - 3.2. 計画対象期間
- 4. 河川整備計画の目標に関する事項
  - 4.1. 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標
  - 4.2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標
  - 4.3. 河川環境の整備と保全に関する目標

- 5. 河川の整備の実施に関する事項
  - 5.1. 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設等の機能の概要
    - 5.1.1. 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項
    - 5.1.2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
    - 5.1.3. 河川環境の整備と保全に関する事項
  - 5.2. 河川の維持の目的、種類及び施行の場所
    - 5.2.1. 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項
    - 5.2.2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項
    - 5.2.3. 河川環境の整備と保全に関する事項
- 6. その他河川整備を総合的に行うために留意すべき事項
  - 6.1. 流域全体を視野に入れた総合的な河川管理と流域全体で取り組む対策
  - 6.2. 総合的な土砂管理
  - 6.3. 地域住民、関係機関との連携・協働
  - 6.4. 治水技術の伝承の取組

第1回有識者会議でいただいたご意見について

| No. | いただいたご意見の概要                                                                        | 考え方                                                       | 変更原案<br>掲載箇所 |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------|--------------|
| 1   | 過去、白鳥山で河川閉塞が発生している。<br>気候変動により降雨量が増大した場合に、河川閉塞が発生すること考えられるが、これは今回の整備計画の範疇になるのか。    | 河道閉塞も含めた複合災害について、今後の課題として、本文に記載しました。（資料1 P3で説明いたします。）     | 2.5.(3)      |
| 2   | 釜無川の重要種は継続して確認されているとあるが、カワラハンミョウ、カワラニガナは減少傾向になっているのでは。                             | 釜無川のカワラハンミョウ・カワラニガナの確認状況についてとりまとめました。（資料1 P4で説明いたします。）    |              |
| 3   | 河床内の生物に関する記載がほとんどない。<br>水生生物の調査結果があるので、現状を教えてください。                                 | 水生生物を含めた、水辺の国勢調査の結果についてとりまとめました。（資料1 P5で説明いたします。）         |              |
| 4   | 目標の方にも、河床の状況をどう保つかを記載してほしい。<br>水質だけでなく河床の状況についても書き込めればと思う。                         | 水域も含めた目標設定を、本文に記載しました。<br>（資料1 P6,7で説明いたします。）             | 4.3(2)       |
| 5   | 次回以降、整備メニューの実現性についても説明が必要。                                                         | 現実的な河川整備の内容検討し、本文に記載しました。<br>（資料2 P8～P12で説明いたします。）        | 5.1.1        |
| 6   | 整備メニューを実施することでどれくらい災害発生確率が下がるか示した方が、住民の方にとっては理解しやすいと思うので示していただきたい。                 | 頂いたご意見を踏まえて、整備前後によるリスク低減についてお示ししました。（資料2 P13,14で説明いたします。） |              |
| 7   | 土砂流出によって、淵が埋まっている河川がある。富士川で淵が埋まった場合は、整備によって元に戻すとか考えた方がよいのではないか。                    | 河道掘削時における環境の保全・創出の考え方を本文に記載しました。（資料2 P16で説明いたします。）        | 5.1.3(2)     |
| 8   | 河川環境(昆虫)は、何か所か生息地があることで生態系を維持している。種を限定するのではなく、いくつかの種類について、何か所か生息地を確保できるようにしてほしい。   | 河道掘削時における環境の保全・創出の考え方を本文に記載しました。（資料2 P16で説明いたします。）        | 5.1.3(2)     |
| 9   | 渇水時の対応について様々ご支援ご協力をお願いしたい。<br>治水、利水、どちらも大切だと思うため、利水も含めまして、流域全体と連携協力関係が築けるようお願いしたい。 | 渇水時の対応について、本文に記載しました。<br>（資料2 P21で説明いたします。）               | 5.2.2        |
| 10  | 近年よく言われてる流域治水についても記載していただきたい。                                                      | 流域治水等、流域全体で取り組む対策について、本文に掲載しました。（資料2 P23で説明いたします。）        | 6.2          |

|   |                                                                                  |
|---|----------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 過去、白鳥山で河川閉塞が発生している。<br>気候変動により降雨量が増大した場合に、河川閉塞が発生することも考えられるが、これは今回の整備計画の範疇になるのか。 |
|---|----------------------------------------------------------------------------------|

富士川水系河川整備計画（変更原案）抜粋

2. 河川整備の現状と課題

2.5. 近年の豪雨災害や地震災害等を踏まえた現状と課題

（3）南海トラフ地震等の大規模地震

.....

南海トラフ沿いでは、嘉永7年（1854年）の安政東海地震・安政南海地震では約32時間の間隔をおいて、昭和19年（1944年）の東南海地震・昭和21年（1946年）の南海地震では約2年間の間隔をおいて大規模地震が発生しており、時間差をおいた複数の地震発生等に備えるため、南海トラフ地震臨時情報の運用がされている。令和6年（2024年）8月には、運用開始後初めての臨時情報が発表されており、改めて平時より地震への備えを徹底する必要がある。

また、令和7年（2025年）7月に中央防災会議において見直された「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」においては、複合災害対策として、大規模地震発生後の長期にわたる復旧・復興期間において、暴風・高潮・大雨・土砂災害・火山噴火・原子力災害等の他の災害が生じ得ることを考慮し、災害ごとの対策等の充実を図るとともに、複合災害の検討に当たっては、より厳しい事象についても可能な範囲で考慮した対策を図るとされている。富士川では、安政東海地震や宝永地震において、沿川の土砂災害による河道閉塞とそれに伴う浸水被害が記録されており、複合災害への対策についても検討する必要がある。

2 釜無川の重要種は継続して確認されているとあるが、カワラハンミョウ、カワラニガナは減少傾向になっているのでは。

○ カワラニガナの変化傾向(釜無川)

河川水辺の国勢調査(植物調査)ではH13年(2001年)とH19年(2007年)にわずかに確認され、最新のH29(2017年)調査では確認されていない。

| 種名     | H7 | H13 | H19 | H29 |
|--------|----|-----|-----|-----|
| カワラニガナ |    | 2   | 1   |     |



○ H29年(2007年)で確認されなかった要因の考察

「カワラニガナは、H19(2007年)調査では1 個体と少なかったため、もともと個体数は少なく、H29調査では生育環境は存在するものの確認できなかったものと考えられる。」

○ カワラハンミョウの変化傾向(釜無川)

地点ではH20年(2008年)のみ確認され、それ以外の年度には確認されていない。

| 種名       | H4 | H9 | H14 | H20 | H30 |
|----------|----|----|-----|-----|-----|
| カワラハンミョウ |    |    |     | ●   |     |

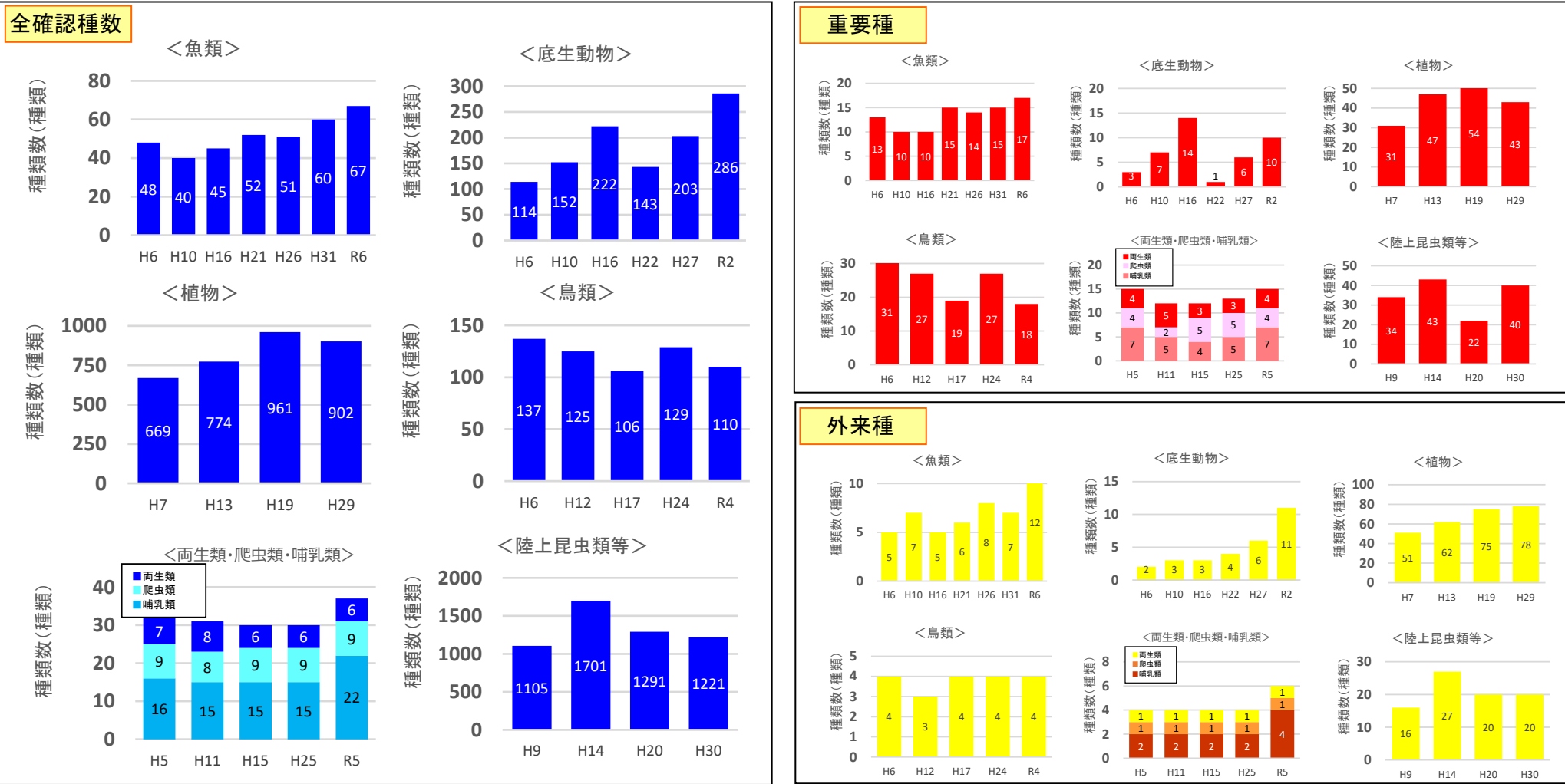


○ 参考(アドバイザーコメント)

「H20年(2008年)の河川水辺の国勢調査で山梨県において初めて確認された。その後行った調査で、H21(2009年)に数個体が確認されたが、H22(2010年)は個体数が減少し、それ以降の調査では確認されていない」

3河床内の生物に関する記載がほとんどない。水生生物の調査結果があるので、現状を教えてください。

○河川水辺の国勢調査結果から、全確認種数、重要種、外来種の経年変化を整理した。  
○底生動物、植物、鳥類、陸上昆虫類は重要種の経年変化等においては、分類体系の変化や調査時期や回数、調査地点数が調査年で異なるため、厳密に比較はできないが、全体的に大きな変化はみられない。



4

目標の方にも、河床の状況をどう保つかを記載してほしい。  
水質だけでなく河床の状況についても書き込めればと思う。

- 動植物の生息・生育・繁殖の場については、河川環境が似通っている区間を「河川環境区分」としてひとまとめにし、区分ごとに良好な区間を「代表区間」として設定する。その上で「代表区間」を目標に河川環境全体の底上げを図ることを基本的な考え方とする。
- 河道掘削などの河川整備等の実施に当たっては、良好な環境を保全するとともに「代表区間」を目標に、治水と環境の調和を図りながら河川環境の向上を図る。
- 特定外来種や外来種の生育・繁殖により在来種への影響が確認されている区間では、治水と環境の調和を図った自然再生を推進し、かつての良好な河川環境の創出を図る。
- 氾濫原環境を含む流域全体にわたる生態系ネットワークの形成のため、多様な動植物等の生息・生育・繁殖の場及びその連続性の確保を図る。
- 流量や土砂の変動など攪乱による河川的作用を考慮し、それらの作用による変化に応じて順応的な管理を行う。
- 地域住民、関係機関等と一体となり、富士川らしい河川景観の保全・形成を図るとともに、自然環境が有する多様な機能を積極的に活用し、富士川流域での地域振興に努める。

河川環境区分毎の代表区間と考え方

河川整備等の実施に当たっては、良好な環境を保全するとともに「代表区間」を目標に、治水と環境の調和を図りながら河川環境の向上を図る。

【出典】河川環境管理シートを用いた環境評価の手引き

| 河川区分  | 河川環境区分          | 位置                               |             | 代表区間                       | 主な環境                                                               |
|-------|-----------------|----------------------------------|-------------|----------------------------|--------------------------------------------------------------------|
| 釜無川   | 富士川上流部<br>(釜無川) | K58～K250付近<br>(65.0km～85.0km付近)  | 武田橋～富士川大橋   | K196～K205付近<br>(79km～80km) | アユ・ウグイ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境やカワラヨモギ等が生育・繁殖する礫河原                         |
| 中流    | 富士川中流部          | H62～K64付近<br>(7.0km～65.0km付近)    | 富士川大橋～早川合流点 | H272～H277付近<br>(49km～50km) | アユ・カジカ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境やイカルチドリが生息・繁殖する礫河原、カヤネズミやオオヨシキリが生息・繁殖するオギ群落 |
|       |                 |                                  | 早川合流点～雁堤上流  | H143～H148付近<br>(24km～25km) | アユ・カジカ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境やイカルチドリが生息・繁殖する礫河原                          |
| 下流    | 富士川下流部          | H0～H62付近<br>(0.0km～7.0km付近)      | 雁堤上流～河口     | H9～H18付近<br>(1km～2km)      | カマキリ（アユカケ）等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境やイカルチドリが生息・繁殖する砂礫河原                     |
| 笛吹川上流 | 笛吹川上流部          | F146～F264付近<br>(16.0km～28.0km付近) | 岩手橋～蜷見橋     | F182～F192付近<br>(20km～21km) | アユ・カワヨシノボリ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境やイカルチドリが生息・繁殖する礫河原、ミゾコウジュが生育・繁殖する水際環境   |
| 笛吹川下流 | 笛吹川下流部          | F0～F146付近<br>(0.0km～16.0km付近)    | 蜷見橋～富士川合流点  | F109～F118付近<br>(12km～13km) | ミナミメダカ等が生息・繁殖する良好なワンド・たまり環境やイカルチドリが生息・繁殖する砂礫河原、オオヨシキリが生息・繁殖するオギ群落  |

4

目標の方にも、河床の状況をどう保つかを記載してほしい。  
水質だけでなく河床の状況についても書き込めればと思う。

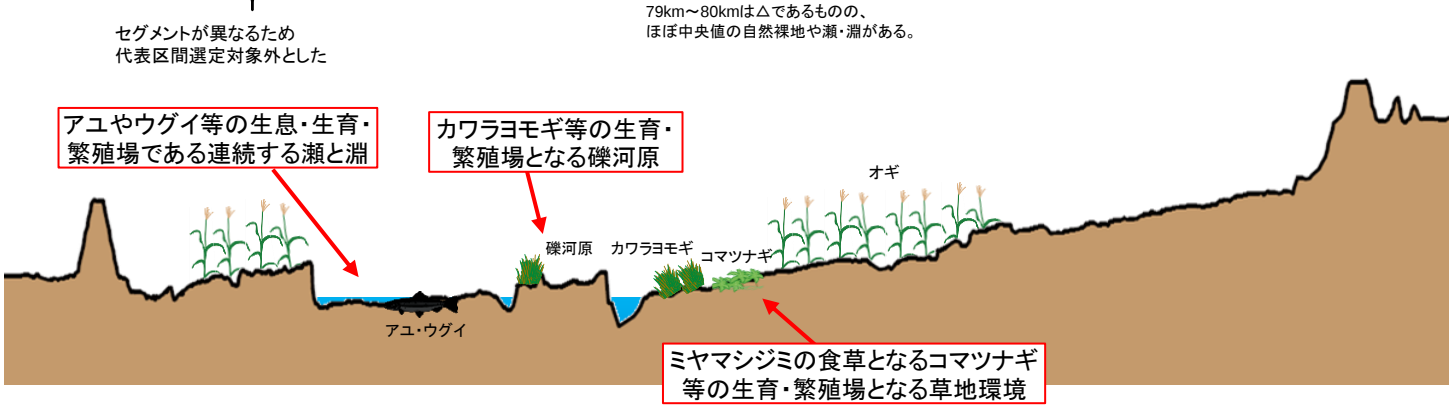
○釜無川は、富士川管内の中でも特に急勾配で、河道幅が広いものの流路幅は狭く瀬が連続し、明瞭な淵が少ない。また、自然裸地や草本群落が大部分を占め高頻度で攪乱を受ける区間である。砂礫地には、カワラヨモギ等が生育・繁殖し、草地には、ミヤマシジミの食草となるコマツナギ等が生育・繁殖している。水域では、連続する瀬や淵が形成され、瀬を産卵場とするアユやウグイ等が生息・繁殖している。

○代表区間である79km～80kmは区間を代表する環境(低・中茎草地、自然裸地、水際の複雑さ)が良好で、アユ、ウグイ等が生息・繁殖する良好な瀬・淵環境やカワラヨモギ、イカルチドリ等が生息・生育・繁殖する礫河原も確認でき、さらに地点を見渡せる視点場があるとして設定。

| 距離標            |     |               | 65       | 66 | 67 | 68 | 69 | 70     | 71 | 72 | 73 | 74 | 75 | 76 | 77 | 78 | 79 | 80 | 81 | 82 | 83 | 84 | 85 |   |  |
|----------------|-----|---------------|----------|----|----|----|----|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|--|
| 河川区分           |     |               | 富士川上流部   |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |  |
| 大セグメント区分       |     |               | セグメント2-1 |    |    |    |    | セグメント1 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |  |
| 典型性            | 陸域  | 1. 低・中茎草地     |          | ○  |    |    |    | △      | ○  | △  | △  | △  | △  | ○  | △  | △  | ○  | △  | ○  | △  |    | △  |    |   |  |
|                |     | 2. 河辺性の樹林・河畔林 | △        | ○  |    | ○  | △  | ○      | ○  | ○  |    | △  | △  | △  |    | △  | ○  | ○  | △  | △  | △  | ○  | △  | ○ |  |
|                |     | 3. 自然裸地       | ○        | ○  | ○  | ○  | ○  | △      | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | △  | △  | △  | △  | △  | △ |  |
|                |     | 4. 外来植物生育地    | ×        | ×  | ×  | △  | △  | ×      | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  | ×  | △  | ×  | ×  | ×  | ×  | △  |   |  |
|                | 水際域 | 5. 水生植物帯      |          | ○  |    |    |    | ○      | ○  |    |    |    |    |    |    | △  | △  |    | ○  | ○  |    |    | ○  | ○ |  |
|                |     | 6. 水際の自然度     | ○        | ○  | ○  | △  | ○  | ○      | △  |    | △  | ○  | △  | ○  | △  | △  | △  | ○  | ○  | ○  | △  | ○  | △  | △ |  |
|                |     | 7. 水際の複雑さ     | △        | △  | △  | ○  | ○  | ○      | ○  | ○  | ○  | ○  | △  | △  | △  | △  | △  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | △ |  |
|                | 水域  | 8. 連続する瀬と淵    | △        | △  |    |    |    |        |    |    |    | △  | △  | △  | △  | △  | △  | △  | △  | △  | △  | △  |    |   |  |
|                |     | 9. ワンド・たまり    |          | ○  | ○  | ○  | △  | ○      | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  | ○  |    |    | ○  |    | △  | ○  | △  | △  | ○  |   |  |
|                | 汽水  | 10. 湛水域       |          |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    | △  |    |    |    |    |    |    |   |  |
|                |     | 11. 干潟        | -        | -  | -  | -  | -  | -      | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | - |  |
|                |     | 12. ヨシ原       | -        | -  | -  | -  | -  | -      | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | -  | - |  |
| 生息場の多様性の評価値    |     |               | 1        | 5  | 2  | 4  | 3  | 5      | 4  | 3  | 3  | 2  | 2  | 1  | 0  | 4  | 4  | 2  | 6  | 1  | 1  | 4  | 2  |   |  |
| 生物との関わりの強さの評価値 |     |               | 1        | 1  | 1  | 1  | 1  | 1      | 0  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 0  | 0  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  |   |  |
| 視点場の有無         |     |               |          | ○  |    |    | ○  |        | ○  |    |    | ○  |    |    | ○  |    | ○  |    | ×  |    |    | ○  | ○  |   |  |



代表区間の斜め写真



代表区間の断面イメージ